

# 図書館通信

最上校図書委員会 No.16 11月1日




## 2021 第75回読書週間

10月27日(水)～11月9日(火) 14日間  
今年度も読書週間が始まります。

食欲の秋・スポーツの秋・芸術の秋・そして、**読書の秋!**  
いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割をはたすことは変わりありません。

暮らしのスタイルに人生設計のなかに、  
新しい感覚での「本との付き合い方」をとりいれていきませんか。

標語「最後の頁を閉じた 違う私があった」



## オススメの本「お楽しみ福袋」貸出

11月15日(月)～ なくなり次第、終了です。

今年度からの試みで、2回目になります。1袋、2冊、20組を用意します。  
ジャンルや作家に好みがあると思いますが、人にすすめられた本を読んでみるのも面白いと思います。  
図書委員がオススメの本を厳選して用意しました。  
どんな本が入っているかは、借りてからのお楽しみ!



# 2021 第三回 映画鑑賞会 in 最上校

## 「ジョゼと虎と魚たち」 アニメ



足の不自由な少女と平凡な大学生の切ない恋の行方を描く。  
ごく普通の大学生・恒夫がアルバイトする麻雀店では、近所に出没する謎の老婆の噂が話題となっていた。その老婆は決まって明け方に現れ、乳母車を押しているのだという。明け方、恒夫は坂道を下ってくる乳母車に遭遇。近寄って中を覗くと、そこには包丁を振り回すひとりの少女がいた。ジョゼと名乗るその少女は足が不自由で、祖母に乳母車を押ししてもらい散歩していたのだ。不思議な魅力を持つジョゼに惹かれた恒夫は、彼女の家をたびたび訪れるようになる。



期 日：11月18日(木)  
時 間：午後3時50分～  
場 所：PC室



※参加希望者は11月16日(火)まで、各クラスの申込用紙に氏名を記入すること。

# 2021年発表 新刊図書展



**「不可逆少年」 五十嵐律人著**  
 不可解なことに、被害者は全員同じ高校に縁のある人々だった。被害者遺族の男子高校生を担当する真風は、思わぬ形で事件の真相に迫る。



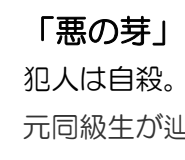
**「元彼の遺言状」 新川帆立著**  
 亡くなった元彼は誰かに殺された！？女性弁護士が依頼人と共謀して分け前を狙う破格の遺産相続ミステリー！



**「母影 (おもかげ)」 尾崎世界観著**  
 小学校でも友だちをつくれず、居場所のない少女は、母の職場のカーテン越しに世界に触れる。



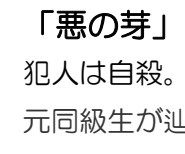
**「おもしろい以外いらんねん」 大前栗生著**  
 幼馴染の咲太と滝場、高校で転校してきたユウキの仲良し三人組。滝場とユウキはお笑いコンビを組むが？



**「ははのれんあい」 窪美澄著**  
 僕の家には、僕の家族には、恥ずかしいことなんて何ひとつない。死別、喧嘩、離婚、壊れかけた家族を救ったのは、幼い頃から母の奮闘と苦労を見守ってきた智晴だった。智晴は一家の大黒柱として、母と弟たちを支えながら懸命に生きていく、心温まる感動の家族小説。



**「アクティバイダー」 沖方丁著**  
 羽田空港に突如、中国のステルス爆撃機が飛来した。女性パイロットは告げる。「積んでいるのは核兵器だ」と。核テロなのか、あるいは宣戦布告なのか。戦慄の国際テロサスペンス。



**「悪の芽」 貫井徳郎著**  
 犯人は自殺。無差別大量殺人はなぜ起こったのか？元同級生が辿り着いた、衝撃の真実とは。



**「灰の劇場」 恩田陸著**  
 大学の同級生の二人の女性は一緒に住み、そして、一緒に飛び降りた。いま、「三面記事」から「物語」がはじまる

**「おれたちの歌をうたえ」 呉勝浩著**  
 あんた、ゴミサトシって知ってるか？元刑事の河辺のもとに、ある日かかってきた電話。その瞬間、封印していた記憶があふれ出す。真っ白な雪と、死体。あの日、本当は何があったのか？

**「君と、君がいる彼方」 末浦広海著**  
 崩壊寸前の四人家族の前に現れた認知症の老人。玄人はだしの料理を作るその老人との触れあいを重ねるうち、妻と娘は恐るべき事実気づくことに。

**「その扉をたたく音」 瀬尾まいこ著**  
 人生の行き止まりで立ちすくんでいる青年と、人生に達観しすぎている青年、そして人生の最終コーナーに差し掛かった大人たちが奏でる物語

**「最悪な一日」 コウイチ著**  
 本当なのか？はたまた嘘なのか？些細な違和感と狂気を見過ごせない自分のモヤモヤした日常を、独特の皮肉とユーモアたっぷりに描くフェイクエッセイ誕生。退屈で閉鎖的な冴えない日が妙に笑えてくる救済エッセイです！！

**「終わりの歌が聴こえる」 本城雅人著**  
 事故死か、殺人か、それとも？執念の捜査を進める二人の刑事たち。音、絆、女、薬……あの日、あの部屋で、何があったのか？

**「あの夏の正解」 早見和真著**  
 このまま終わっちゃうの？二〇二〇年、愛媛の済美と石川の星稜、強豪二校に密着した元高校球児の作家は、彼らに向き合い、“甲子園のない夏”の意味を問い続けた。退部の意思を打ち明けた三年生、迷いを正直に吐露する監督。パンデミックに翻弄され、挑戦することさえ許されなかったすべての人に送るノンフィクション。

**「鳴かすのカッコウ」 手嶋龍一著**  
 公安調査庁は、警察や防衛省と比べて、人もそんな最小で最弱の組織に入庁してしまった梶壮太は？

